

令和4年度 第3回大府市生涯学習審議会議事概要

日 時 令和5年2月22日(水) 午後3時から午後4時30分まで
場 所 大府市役所 地下 会議室 001・002
出席委員 会長 池田逸夫、副会長 山内とよ子、
滝川初成、今井修、犬塚芳克、神田由美、館内三郎、松下裕子、
山本友和、井上啓子、石黒公子
欠席委員 大橋房代
事務局 副市長 山内健次、教育長 宮島年夫、
市民協働部長 信田光隆、
協働推進課長 大塚康雄、協働推進課担当課長 竹田守孝、
共長公民館長 古田功治、協働推進生涯学習係長 平松雅也、
協働推進生涯学習係技師 佐々木宏孝
傍聴人 なし

1 副市長あいさつ

新型コロナウイルスの新規感染者数が徐々に落ち着きを取り戻しており、県においては「愛知県医療ひっ迫防止緊急アピール」を2月19日で解除しており、全体的に制限の緩和が進められていることに伴い、本市でも、公共施設の利用制限を全面解除することを決定したため今後、市民活動が活発になることを期待しております。

今年度については、事業も活発に実施することができ、秋から年末にかけては、各公民館まつり、産業文化まつり、0BU-1 グランプリ 2022withメディアス、大府シティ健康マラソン大会を、年が明けてからは、七福神めぐり、盆梅展、どぶろくまつりなど、様々な行事やイベントを開催することができました。これもひとえに地域の皆さまのお力添えによるものと感謝しております。

また、本年度の生涯学習研究集会においては、委員であられる「山本友和」様にご講演いただきましたことで、本市出身の偉大な数学者である永田雅宜氏の生涯について改めて学ぶことができました。また、山本様を始め多くの皆様に御協力をいただいたことで、永田雅宜氏の生涯をまとめた本「博士のポケット」を発刊する運びとなりましたこと、深く感謝申し上げる次第でございます。

さて、本日は、今年度第3回の生涯学習審議会ということで、委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただきました。議題につきましては、「令和5年度生涯学習事業計画(案)」を始め4つ、また報告事項として5つあり、いずれも本市の公民館・生涯学習の推進にとって非常に重要な議題となりますので、委員の皆様にはぜひとも忌憚のないご意見をいただきたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ

新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきたこともあり、制限が徐々に緩和されていくことが予定されており、ようやく元の生活に戻ってきたように感じます。

本日は今年度最後の大府市生涯学習審議会ということもあり、たくさんの議題や報告事項が出ております。よろしくご審議賜りますようお願いしまして、挨拶に代えさせていただきます。

3 議題

(1) 令和5年度生涯学習事業計画(案)について(資料No.1)

事務局：資料No.1に基づいて説明

(委員)「公民館等を活動拠点とする自主学習団体の育成」については、来年度からの新規事業なのか。自主学習団体は地域の担い手になっていることも多いため、ぜひこの事業は推し進めてほしい。

(事務局) これまでも実施している既存の事業であり、自主学習団体に対しては継続して支援を実施していく。

(委員) 公民館講座はこれまで、子どもか高齢者を対象としたものが多かったが、中間層を対象とした講座が増えているのは、良い傾向であると思う。

(事務局) これまでも、全公民館で「フレガク」という若者世代を対象とした講座を開催してはいたが、なかなか人が集まらないのが現状であった。その中で来年度は、若い世代に興味を持ってもらえるような内容であるドローンについての講座を、森岡公民館で開催予定である。講座への参加をきっかけに、以後公民館に気軽に足を運んでもらえるようになってくれることを期待している。

(委員) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための制限が緩和されてきたことにより、今後は地域活動が活発になっていくことが推測されるが、これまで地域に興味のなかった層に公民館の講座等を周知するために、どのような取り組み方法を考えているか。

(事務局) PR方法については、広報おおぶやウェブサイトを中心に用いているが、期待するほどの効果が挙がっていないことは感じている。そのため、写真を掲載し講座内容を少しでもわかりやすく伝えるなど、今後も改良の検討を重ねていきたいと考えている。また、SNSによる情報の発信も、有効な手段のひとつとして公民館職員にて検討中であり、そこで良い結論が出れば、情報共有を行いながら活用していきたいと考えている。

(委員) 小学校ではアプリを活用して情報を展開している。広報おおぶやウェブサイトはあまり見る機会がない人もいると思うので、そういったものを活用するのはいかがだろうか。

(事務局) アプリの活用は現在予定していないが、まずはウェブサイトを今よりもわかりやすいものにできるように努めていきたい。

(2) 令和5年度大府市生涯学習データベース(案)及び各課の重点取り組み事業について(資料No.2)

事務局:資料No.2に基づいて説明

(委員) データがあるのなら、実際にウェブサイトで表示されるページの画面をスクリーンに投影する等して、その使い方をこの場でご説明いただければ、我々委員も理解しやすいと思う。

(事務局) 貴重なご意見感謝する。今後の参考とさせていただきます。

(委員) データベースはウェブサイトから検索して入手できるのか。ウェブサイトは情報が探しにくいいため、目的のものがすぐに探し出せるような工夫をしてほしい。

(事務局) データベースはウェブサイトから検索して入手可能である。ウェブサイトについては、利用しやすくなるよう改善を行っていきたい。

(委員) データベースに掲載されているそれぞれの行事について、その詳細を知ることができるのか。詳細までわからなければ不便だと思う。

(事務局) データベースからはそれぞれの詳細までは辿ることはできないため、各公民館や担当課に直接お問い合わせいただくしかない。

(事務局) 委員のご指摘のように、それぞれの行事の詳細まで辿ることができればベストであるが、実際の運用としては難しい。しかし、ここで得た情報について各担当まで直接お問い合わせいただければ、詳細な内容についてもご紹介することができるため、公民館や地域に関わるきっかけづくりとしても活用頂きたいと考えている。

(委員) バイオリン講座について、直営の施設のみで開催となっているが、指定管理の施設でも開催してはどうか。

(事務局) 資料に記載している内容については、今の段階での予定のため、今後変更があるかも知れないが、貴重なご意見として、担当課には情報共有しておく。なお、指定管理となっている施設はそれぞれ運営している団体が異なり、東山児童老人福祉センターのようにバイオリンに関する事業を独自に展開しているところもある。共和西児童老人福祉センターは社会福祉協議会が運営しているが、今回のように要望があったことについては、市の方からも要望しておく。

(3) 令和5年度公民館等におけるバイオリン講座の実施について(資料No.3)

事務局:資料No.3に基づいて説明

(委員) 障がいを持つ方や、未就学児を連れた保護者の方でも気軽に参加でき

る講座があっても良いのではないか。

(事務局) いきいきプラザでは親子を対象に開催するが、子どもは3歳以上であれば参加できるように予定している。ご意見を踏まえ、より幅広い層にバイオリンを親しんでいただけるよう検討していく。

(委員) 子ども会会員を対象としたバイオリン講座があるが、子ども会への加入率が低下している現状で、なぜ子ども会会員のみ限定するのか。

(事務局) 子ども会の加入率は低下しており、担当課では加入者を増やすため様々な取り組みを行っている。バイオリン講座もそのひとつで、子ども会会員を対象とした魅力ある講座を開催することで、子ども会への加入者を増やしたいという意図がある。しかし、資料に記載している情報だけでは少し伝わりにくい部分もあるので、改めて担当課には内容を確認しておく。

(委員) バイオリンについてこれだけ多くの講座を開催することは、他市町村にはない取り組みであり、ここからさらに波及してどのような効果を生じるのか、大いに期待しているところである。

(事務局) 今年度は、北山小学校のクラス単位でバイオリン講座を実施したが、来年度は市内9小学校全てで開催を予定している。

(委員) バイオリン講座については、ただ開催して終わりとするのではなく、もし講座をきっかけにバイオリンを続けていきたい子どもがいたら、バイオリンの講師等を紹介し、意欲のある子どもの助けとなるような仕組みがあると良いと思う。

(事務局) 先日、本市と協定を結んだスズキ・メソードが市内で音楽教室を開いているので、そこでバイオリンを続ける選択肢を選ぶこともできる。講座を通じて、バイオリンに興味を持ってくれる子ども達がたくさん増えれば、いずれはまた大府市から竹沢恭子さんや水野紗希さんのようなバイオリン奏者が誕生することも期待できる。

(委員) 一般の方を対象とした講座が少なく感じる。1つの講座のためだけに寿大学に申し込むのも気が引ける人も多いと思うので、もう少し一般の方も気軽に参加できるようにしてくれれば良いと思う。

(事務局) 貴重なご意見感謝する。対象者については、内容を決定するまでに範囲を拡大できるようであれば、対応を検討していきたい。

(4) 令和5年度永田雅直氏記念算数・数学講座『ながラボ』の実施について(資料No.4)

事務局：資料No.4に基づいて説明

(委員) 参加人数が少なかったとお聞きした覚えがあるが、チャレンジコースについては、子ども達は夏休み期間なので、講座は全て平日に開催し、土日は家族で過ごしてもらえようとしたら、参加者は増えるのではな

いだろうか。

(事務局) 参加人数が少なかったのは、新型コロナウイルスによる影響を懸念される人が多かったことも原因としてあると考えている。また、チャレンジコースを夏休み期間であるにも関わらず土曜日を開催日としたのは、平日だとスタッフである大学生を集めにくいという事情もあり、仕方なく土曜日とした経緯がある。

(委員) チャレンジコースの開催日のひとつに9月30日とある。しかし、この日は共長公民館まつりと開催予定日が被っているが問題ないのか。

(事務局) 共長公民館で開催すると決定したわけではなく、どこかの公民館で開催を予定している。

4 報告事項

(1) 市民芸人登録制度及びバイオリン講師登録制度の創設について(資料No.5)

事務局：資料No.5に基づいて説明

(委員) それぞれの登録を検討している人は、具体的な謝礼の金額が気になると思うが、その辺りを含めて案内はあるのか。

(事務局) 謝礼の金額については、行事の規模、出演時間、出演人数等、様々な条件があるため一概に示すことは難しい。しかし、登録の際に希望条件の聞き取りを行い、行事運営側の予算等と照らし合わせ、お互いの希望にあったマッチングができるよう取り組んでいく。

(2) 永田雅宜氏伝記本『博士のポケット 数学者・永田雅宜の生涯』の刊行について(資料No.6)

事務局：資料No.6に基づいて説明

(委員) 永田先生は、一時的に大府市にいたという訳ではなく、長い期間生活されており、本当の意味で大府市に馴染みの深い方である。しかし、その情報は記録としてあまり残っておらず、数少ない記録を探すことに苦労したが、見つけた時は嬉しかった。幅広い世代に永田先生のことを知ってもらいたい、特に、永田先生の研究姿勢や生き方について、子ども達にぜひ知ってもらいたい。そのため、執筆にあたっては専門的な用語や難しい言葉を極力使用しないよう心掛け、できる限りわかりやすい内容とした。機会があれば、ご一読いただければと思う。

(委員) 先日の生涯学習研究集会で永田先生の逸話を聞いたが、感心させられる面白い内容だった。そのような話も含めて、この本には色々な話が掲載されていることかと思うので、幅広い世代の方に広く知ってもらいたいと思う。

(3) 令和4年度永田雅宜氏記念算数・数学講座『ながラボ』に関する報告について
(資料No.7)

事務局：資料No.7に基づいて説明
(質問、意見等なし)

(4) 第34回大府市生涯学習研究集会に関する報告について(資料No.8)

事務局：資料No.8に基づいて説明
(質問、意見等なし)

(5) 令和4年度公民館まつりに関する報告について(資料No.9)

事務局：資料No.9に基づいて説明
(質問、意見等なし)

5 教育長あいさつ

本日の審議の内容の重点は、バイオリンと永田雅宜氏に関するものでありました。この2つのそもそもの原点は何かを考えますと、どちらも「人おこし」または「街おこし」であると考えております。また、世界に大勢いる偉人の中で、大府市にゆかりのある人を振り返ってみるということから、これらの事業は始まっており、また子ども達の郷土愛に繋がっていくと受け止めております。

今年度、北山小学校で1回2時間のバイオリン体験講座をクラス単位で開催しました。バイオリンの演奏は難しく、時間も限られていましたので、単純に子ども達の体験の機会になればという思いでございましたが、最後には童謡のきらきら星を全員で演奏できるほどに上達していたため、何でも一度やってみることだなと感じました。この経験は子ども達の心に一生残り、今後はオーケストラの中のバイオリンの音色に耳を傾けるようになるでしょうし、良い体験の場になったと感じておりますので、来年度は市内9小学校全てで自信を持って開催いたします。

永田雅宜氏においては、本日の報告事項にもあったとおり、永田雅宜氏の生涯を山本委員にご執筆いただき、大変感謝申し上げます。これで、大府の子ども達のみならず、様々な人に広く知ってもらえることができます。また、このような取り組みは子ども達に還元されなければならないということで、公民館における「ながラボ」の実施と、教育委員会における「算数・数学検定の受験補助」及び、「永田雅宜賞の授与」など、永田雅宜氏に関連した事業を行うことで、児童・生徒の算数・数学の学力向上を目指しているところであります。

公民館事業についても、より良いものとなるよう模索し続けています。また来年度についても事業を改善して進めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、皆様には2年間、大府市生涯学習審議会委員として本市の生涯学習の推

進にご尽力いただき感謝申し上げます。

皆様の委員の任期は、本年3月31日まででございますが、引き続き委員をお受けいただける方も、また委員を退任されます方も、どうぞ本市の生涯学習の推進に引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。